

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立

西巣鴨

幼稚園

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
	19	7	5

領域	豊島区教育ビジョン 2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策	
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価概要	学校関係者評価の意見		標語
				4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1				
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	15	4	0	0	0	4	0	0	0	1	7	0	0	0	・西巣鴨小学校との交流活動を年間計画を元に行うことができた。西巣鴨第三保育園とワークショップやもほしランドで交流することができた。	・就学していく上で、同じぐらゐの年代と関わることは必要なこと。今後も様々な保育園と交流していくと良い。	A	・次年度は、幼小交流は継続しつつ、他の保育園とも交流する機会を設定していきたい。単級になってしまうので、交流の仕方について小学校・保育園と相談しながら実施する。	
			学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。		12	7	0	0	0	4	0	0	0	1	7	0	0	0	・年間を通して計画的に動植物の栽培飼育活動に取り組むことができ、様々な感情の育ちを見ることができた。自らやってみたくと思える遊びを提供し、発達段階に応じて歌や絵本を選び楽しみながら活動できている。タブレットは、外国籍幼児とのコミュニケーションや運動会などの活動の振り返りに効果的に活用することができた。	・自然との関わりが都会の中の幼稚園でよく工夫されている。小さいときに自然と関わるのはとても大切な経験である。子供たちは、学びたいという気持ちを持っている。集団での経験、たくさんの友達と過ごすことは大切なことである。	A	・次年度は、園庭の自然散策について、子供たちがさらに意欲的に関われるように声かけ等を工夫していく。 ・他園との子供たちと関わる機会を増やして、いろいろな子供たちと関わる経験を積ませていく。 ・子供の学びたいことを好きな遊びの中で実現できるように、教材の提供を工夫する。	
II	確かな学力の育成	II-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	4	3	0	・好きな遊びの時間を十分にとり、自分のやりたい遊びをする中で友達と関わりいろいろな経験を積ませることができた。年少年長が遊びの中で関わることも多く預かり保育の時間も異なる年齢の友達や他の先生と過ごす中での関わり方を学ぶことができた。・飼育栽培活動の中で幼児の多くの発見を受け止め、絵に描くなどの表現活動につなげている。	・保護者のアンケート集計結果から、規範意識と思いやりについては家庭との両立が大切である。一人一人への啓発とともに保護者会などで全体への啓発していくと良い。	B	・規範意識の芽生えとなるように、子供たちを振り返らせる活動を大切にしていこう。日常の保育活動の中でお互いの良いところを認め合える雰囲気を作っていく。 ・保護者会等を通して、規範意識、思いやりの気持ちの醸成について家庭への協力をお願いしていく。 ・飼育栽培活動については、次年度も継続的に実施していく。	
			学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおり、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		9	8	0	1	0	2	2	0	0	1	7	0	0	0	・好きな遊びの時間を十分にとり、自分のやりたい遊びをする中で友達と関わりいろいろな経験を積ませることができた。年少年長が遊びの中で関わることも多く預かり保育の時間も異なる年齢の友達や他の先生と過ごす中での関わり方を学ぶことができた。・飼育栽培活動の中で幼児の多くの発見を受け止め、絵に描くなどの表現活動につなげている。	・保護者のアンケート集計結果から、規範意識と思いやりについては家庭との両立が大切である。一人一人への啓発とともに保護者会などで全体への啓発していくと良い。	B	・規範意識の芽生えとなるように、子供たちを振り返らせる活動を大切にしていこう。日常の保育活動の中でお互いの良いところを認め合える雰囲気を作っていく。 ・保護者会等を通して、規範意識、思いやりの気持ちの醸成について家庭への協力をお願いしていく。 ・飼育栽培活動については、次年度も継続的に実施していく。	
III	豊かな心の育成	III-2	学校は、生命を大切にできる態度や思いやり、優しい心を育てている。		10	8	0	1	0	3	1	0	0	1	6	1	0	0	・好きな遊びの時間を十分にとり、自分のやりたい遊びをする中で友達と関わりいろいろな経験を積ませることができた。年少年長が遊びの中で関わることも多く預かり保育の時間も異なる年齢の友達や他の先生と過ごす中での関わり方を学ぶことができた。・飼育栽培活動の中で幼児の多くの発見を受け止め、絵に描くなどの表現活動につなげている。	・保護者のアンケート集計結果から、規範意識と思いやりについては家庭との両立が大切である。一人一人への啓発とともに保護者会などで全体への啓発していくと良い。	B	・規範意識の芽生えとなるように、子供たちを振り返らせる活動を大切にしていこう。日常の保育活動の中でお互いの良いところを認め合える雰囲気を作っていく。 ・保護者会等を通して、規範意識、思いやりの気持ちの醸成について家庭への協力をお願いしていく。 ・飼育栽培活動については、次年度も継続的に実施していく。	
			学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		13	5	0	1	0	3	1	0	0	1	7	0	0	0	・「にしすようダンス」を開発し、全園児で踊ることができた。芸術家と子どもたちのワークショップを通じて身体表現活動の楽しさを味わうことができた。種植え、苗植えから丁寧に育ち、芽が出て育っていく様子を楽しみ、食物への興味、関心、感謝の気持ちが育つようにしている。収穫した野菜を食する体験は食育へつなげることができた。	・様々な行事や製作物を見て、いいレベルで保育活動を行っているように感じている。英語活動への取り組みも良い試みであると感じている。	A	・にしすようダンスを日常的に取り組んでいき、体力向上・健康な生活につなげられるようにしていく。 ・園庭や西巣鴨小学校の西巣ランドを活用して、様々な運動遊びに取り組む時間を確保していく。 ・食育は、栽培活動で収穫できた食材を活用して、活動の振り返りを行い、次の活動に生かしていけるようにする。	
IV	健やかな体の育成	IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		0	0	0	0	0	3	1	0	0	1	6	1	0	0	・「にしすようダンス」を開発し、全園児で踊ることができた。芸術家と子どもたちのワークショップを通じて身体表現活動の楽しさを味わうことができた。種植え、苗植えから丁寧に育ち、芽が出て育っていく様子を楽しみ、食物への興味、関心、感謝の気持ちが育つようにしている。収穫した野菜を食する体験は食育へつなげることができた。	・様々な行事や製作物を見て、いいレベルで保育活動を行っているように感じている。英語活動への取り組みも良い試みであると感じている。	A	・にしすようダンスを日常的に取り組んでいき、体力向上・健康な生活につなげられるようにしていく。 ・園庭や西巣鴨小学校の西巣ランドを活用して、様々な運動遊びに取り組む時間を確保していく。 ・食育は、栽培活動で収穫できた食材を活用して、活動の振り返りを行い、次の活動に生かしていけるようにする。	
			学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。		14	5	0	0	0	3	2	0	0	0	7	0	0	0	・日頃の園児の様子、健康状態を共有化して保育活動に当たることができている。自己表現をしたり、気持ちを切り替えていくような声かけを行い、十分時間をとってきたときに認める事を常としてきた。自分のやりたいこと、伝えたいことを自然に言う事ができる環境作りを心がけ、自己肯定感の向上につなげてきた。個別の指導計画を立てている幼児への支援を共有して保育に当たってきた。	・自分から困っていることを発信していくことは、今後も必要な生きる力である。また、人の意見を聞き止める力も育てていかなければならないと感じる。外国籍の子供たち、特別な支援を必要とする子供たちが同じ場で遊び合ひ、学び合っている姿に豊かな心を感しています	A	・日常的に園児一人一人へ声をかけ、意見をよく聞く事により、何が困っているのかを自ら教職員に話ができるようにしていく。 ・自己肯定感が上がるように、良いところ見つけてその都度、褒める声かけを行う。 ・園に通っている子供たちの個性を大切に、友達のよさを全体に広げ、日常にお互いを認め合えるように声をかけていく。	
V	一人一人を大切にできる教育の推進	V-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。		15	4	1	0	0	4	1	0	0	0	6	1	0	0	・日頃の園児の様子、健康状態を共有化して保育活動に当たることができている。自己表現をしたり、気持ちを切り替えていくような声かけを行い、十分時間をとってきたときに認める事を常としてきた。自分のやりたいこと、伝えたいことを自然に言う事ができる環境作りを心がけ、自己肯定感の向上につなげてきた。個別の指導計画を立てている幼児への支援を共有して保育に当たってきた。	・自分から困っていることを発信していくことは、今後も必要な生きる力である。また、人の意見を聞き止める力も育てていかなければならないと感じる。外国籍の子供たち、特別な支援を必要とする子供たちが同じ場で遊び合ひ、学び合っている姿に豊かな心を感しています	A	・日常的に園児一人一人へ声をかけ、意見をよく聞く事により、何が困っているのかを自ら教職員に話ができるようにしていく。 ・自己肯定感が上がるように、良いところ見つけてその都度、褒める声かけを行う。 ・園に通っている子供たちの個性を大切に、友達のよさを全体に広げ、日常にお互いを認め合えるように声をかけていく。	
			学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		14	5	1	0	0	4	1	0	0	0	7	0	0	0	・日頃の園児の様子、健康状態を共有化して保育活動に当たることができている。自己表現をしたり、気持ちを切り替えていくような声かけを行い、十分時間をとってきたときに認める事を常としてきた。自分のやりたいこと、伝えたいことを自然に言う事ができる環境作りを心がけ、自己肯定感の向上につなげてきた。個別の指導計画を立てている幼児への支援を共有して保育に当たってきた。	・自分から困っていることを発信していくことは、今後も必要な生きる力である。また、人の意見を聞き止める力も育てていかなければならないと感じる。外国籍の子供たち、特別な支援を必要とする子供たちが同じ場で遊び合ひ、学び合っている姿に豊かな心を感しています	A	・日常的に園児一人一人へ声をかけ、意見をよく聞く事により、何が困っているのかを自ら教職員に話ができるようにしていく。 ・自己肯定感が上がるように、良いところ見つけてその都度、褒める声かけを行う。 ・園に通っている子供たちの個性を大切に、友達のよさを全体に広げ、日常にお互いを認め合えるように声をかけていく。	
VI	教師力の向上と魅力ある学校づくり	VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。		0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5	2	0	0	・朝会や職員会議を通して、園運営について共通理解を図り保育活動を行うことができた。保護者からの声も全教職員に周知し連携を図っている。教材研究については、様々なやり方を試しながら行い、幼児が生きていく制作できるような教材を提供してきた。	・様々な園、考え方があるため、保護者に伝えていくことは難しい点もあるが、園内で共通理解して対応していくと良いと思う。	A	・次年度は単学級のため、じっくり落ち着き、時間をかけるべきところは、しっかりと時間をかけていく。 ・保護者会などを通して、幼稚園の教育活動を丁寧に説明し、家庭とも足並みをそろえて、子供たちのよさを認め、褒めていく。	
			学校は、秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。		14	5	0	0	0	3	2	0	0	0	7	0	0	0	・朝会や職員会議を通して、園運営について共通理解を図り保育活動を行うことができた。保護者からの声も全教職員に周知し連携を図っている。教材研究については、様々なやり方を試しながら行い、幼児が生きていく制作できるような教材を提供してきた。	・様々な園、考え方があるため、保護者に伝えていくことは難しい点もあるが、園内で共通理解して対応していくと良いと思う。	A	・次年度は単学級のため、じっくり落ち着き、時間をかけるべきところは、しっかりと時間をかけていく。 ・保護者会などを通して、幼稚園の教育活動を丁寧に説明し、家庭とも足並みをそろえて、子供たちのよさを認め、褒めていく。	
VII	家庭・地域との連携	VII-2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。		15	3	0	0	1	5	0	0	0	0	6	1	0	0	・毎月の園だよりに加え、月2回クラスだよりを発行し、園での活動を具体的に知らせている。ホームページの幼稚園日記をほぼ毎日更新し、最新の情報発信に努めた。降園時に幼児の様子を伝え、保護者に保育活動への理解と協力が得られるように対応してきた。学校運営連絡協議会委員への説明を丁寧に、ご意見をいただくことができた。	・降園時に一人一人に子供の様子を伝えてくれるので、子供の様子がよく分かって良い。ケアハウスとの交流も今後できるようにすると良い。	A	・次年度もホームページの更新を日々行っていく。園だより、クラスだよりに加えて必要に応じて手紙等を発信して、家庭との距離が近い幼稚園にしていく。 ・学校運営協議会委員から参加した行事ごとにご意見をいただき、次の活動に反映させていく。 ・菊おる園「ケアハウス」との交流を検討していく。	
			学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。		12	5	0	0	2	5	0	0	0	0	7	0	0	0	・毎月の園だよりに加え、月2回クラスだよりを発行し、園での活動を具体的に知らせている。ホームページの幼稚園日記をほぼ毎日更新し、最新の情報発信に努めた。降園時に幼児の様子を伝え、保護者に保育活動への理解と協力が得られるように対応してきた。学校運営連絡協議会委員への説明を丁寧に、ご意見をいただくことができた。	・降園時に一人一人に子供の様子を伝えてくれるので、子供の様子がよく分かって良い。ケアハウスとの交流も今後できるようにすると良い。	A	・次年度もホームページの更新を日々行っていく。園だより、クラスだよりに加えて必要に応じて手紙等を発信して、家庭との距離が近い幼稚園にしていく。 ・学校運営協議会委員から参加した行事ごとにご意見をいただき、次の活動に反映させていく。 ・菊おる園「ケアハウス」との交流を検討していく。	
VIII	特色ある教育活動	VIII-1	学校は、幼小交流への取り組みに関する教育を推進している。		15	4	0	0	0	5	0	0	0	0	7	0	0	0	・年間計画を立案し、1年生～5年生、特別支援学級と年間各学年学級1回以上の交流活動を実施している。特に1年生と5年生との交流活動は複数回実施している。この実績を区幼研の事例研究としても発表している。	・年間を通して同じ学年と交流することは大切であると感じる。幼小交流は、小学校5年生にとって、最高学年への準備期間にもなり、良い経験となる。	A	・西巣鴨小学校との幼小交流は継続していくが、園児数が少なくなるので交流の仕方と内容について、学校と相談していく。 ・小学校の行事(来年度は音楽会)を鑑賞させてもらう。	
			学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。		6	1	0	0										・正規教職員と会計年度任用教職員の連携が円滑であり、全教職員で幼稚園運営に当たることができている。朝会、学年会、職員会議等で適宜情報を共有化することで適切に保育活動を推進することができた。	・教師陣に熱意を感じる。教職員の方々温かく地域に開かれていくと感じる。	A	・次年度は単級になってしまうので、教員組織、園務分掌など教職員の状況に合わせて、年度初め、年度途中で臨機応変に対応していく。		

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある